

# Leica Viva GS08plus



ライカジオシステムズの軽量、ワイヤレス、高精度のGNSSシステム  
 「Leica Viva GS08plus」は、Intergeo 2012において「最も革新的な製品」部門で  
 Wichmann Innovations Award を受賞しました。

## アンテナとコントローラーはBluetoothでワイヤレス接続



Leica Viva GS08Iに比べてアンテナが薄くなりました！

GS08のアンテナ →



コントローラーはCS10限定となりますが、  
 背面に2メガピクセルのカメラを搭載しております。  
 ボールとは専用のベースプレート、クランプで  
 ご使用いただけます。



## 簡単な操作性のソフトウェア SmartWorxViva LT



誰でも簡単操作なソフトウェアです！ SmartWorx Viva LT は明瞭なグラフィクス、明確なメニュー構造、分かりやすい説明とシンプルな  
 操作手順によって、極めて簡単に操作できるよう設計されています。電源を入れれば直ぐにでも観測を始めることが可能です。

## GNSSの他にもGLONASS対応 (オプション)

## VRS配信データの通信インフラは自由に

WiFi Ntrip方式 + WI-FI 搭載コントローラー<sup>(\*)</sup>なので、補正データをBluetooth搭載携帯電話やWI-FIルーター  
 更に！テザリング対応スマートフォンで受信することが可能です！  
 通信環境によって自由に通信キャリアを選択することが出来ます！  
 (\*1) WLAN付きのCS10コントローラー



コンパクトに格納可能



## ライカ独自の信頼性



**Leica SmartTrack**  
 最高精度での衛星信号捕捉を保証します。



**Leica SmartCheck**  
 RTK測定結果を常に評価し再確認して、信頼性の高いRTK計測結果を提供  
 します。これにより信頼性の高いデータを提供することができます(業界No.1の  
 99.99%以上の信頼性 ※スマートチェック機能を使用した場合) SmartCheck  
 テクノロジーは、作業中も継続的に独立して自動的にチェックを行います。



**Leica xTrack**  
 測量が困難な環境においても信頼のおける位置測定を行うテクノロジーです。  
 測量が難しい条件下で、標準的なRTK FIXより僅かに精度は落ちますが、優れた  
 精度で測量結果をお届けします。再初期化には圧倒的に威力を発揮します！

## オプションで標準のVRS機能の拡張が可能

上記の「GLONASSオプション」の他に、スタティック用「生データ記録オプション」、「RINEXオプション」、「5Hzオプション」  
 「RTK固定局オプション」などご用意しておりますので、必要に応じてご用意下さい。価格は別途お問い合わせ願います。

## CS10 コントローラーはViva TS (光波) と併用可能 (CS10 TPS無線モデルに限る)

Viva TS へ無線ハンドルを追加すれば、GNSSで使用していたCS10 コントローラーがTPSでも使用可能です。  
 Bluetooth通信も可能ですが、到達距離をご確認下さい(Bluetooth Class2仕様)




## [スマートステーション]にも対応

Viva TPS (TS15など) にスマートステーション用アダプター及びオプションソフトの追加で、  
 GS08plusのアンテナと一体化が可能です (CSコントローラーは不要)




# CS10 フィールドコントローラー


キャプチャー(カメラ)+スケッチ+クリップ

 2メガピクセルのカメラで背面から撮影



 写真などにスケッチ可能です

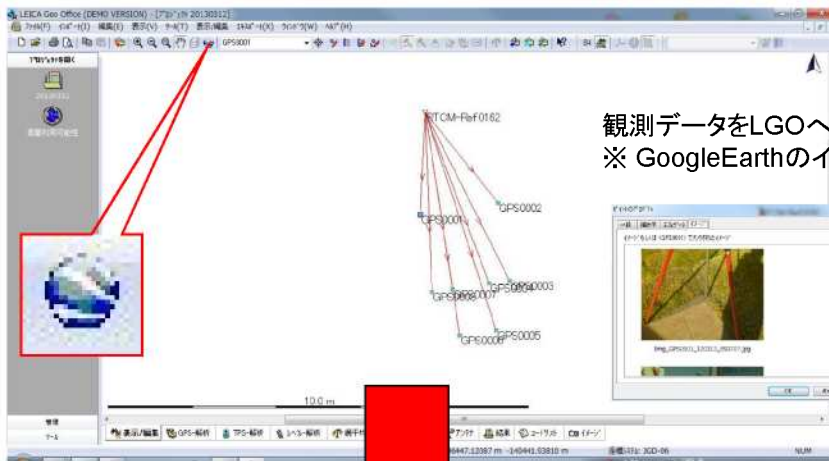


 クリップ機能: 写真&スケッチを既存の測点へクリップ可能です

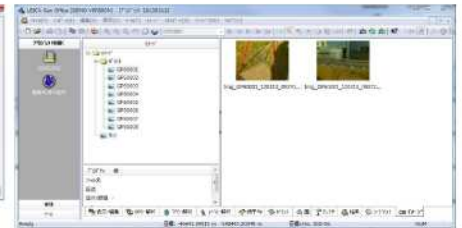
画像ファイル名は後で分かりやすくなっております!

頭文字Img+ポイント(測点)名+日付+時刻(例: Img\_P250\_220213\_171225.jpg)

## □ Leica Geo Officeで、観測ポイント&写真をgoogle Earthへ



観測データをLGOへ取り込み、GoogleEarthボタンを押すと  
※ GoogleEarthのインストールが必要



ポイント(観測点)と写真がGoogleEarth上に表示されます。  
※ 但し、GoogleEarthの精度によるズレは発生します。



保存すれば、発注先などへGoogleEarthファイルとして提供可能です



# 土地家屋調査士の方などへ・・・観測に使用した電子基準点の証明

【株式会社ジェノバのVRS補正データを使用している場合】

VRS観測の結果(緯度経度・楕円体高/XYZ等)と日付を入力すれば・・・

近傍電子基準点検索

**条件入力**

経緯度BLH | 地心直交XYZ | 平面直角XYH

**座標入力**

緯度(北緯)  度  分  秒

経度(東経)  度  分  秒

楕円体高  m

**日時入力(日本時間)**

観測日時    (時間無し)

**検索結果**

測位地点に整合する近傍電子基準点リスト

**測位地点**

北緯:	34度43分58.46001秒
東経:	135度29分34.57010秒
楕円体高:	66.019m
観測日時:	2012年8月10日

**近傍電子基準点3点**

局番号	基準点コード	名称
940067	EL05235240001	箕面
950336	EL05235041101	大阪
950355	EL05235036002	西宮

右の【検索結果】近傍電子基準点のデータをそのまま印刷して使用したり、Excelなどで書式を作成して法務局へ成果データと共に提出！！

## Viva GNSSシリーズ共通

CSコントローラーで衛星状況を確認！

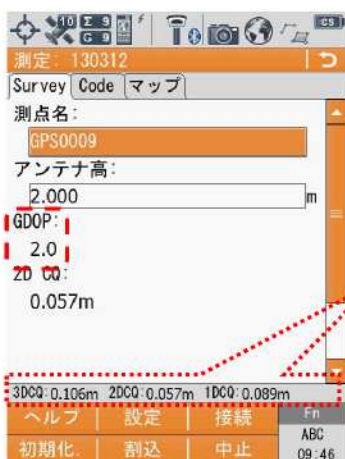


ナビゲーション  
(単独測位)

コード補正  
(FLOAT)

FIX

SmartCheck  
(6秒間に1度の初期化)



補正データ受信後、3DCQ,2DCQの数値が小さくなると(収束すると)、FIXとなります！

## 上位機種のご紹介

GS15 : アンテナ・無線一体型

GS10 : アンテナ分離型



どのような時、GS08 plusではなく、上位機種を選択すべきなのでしょうか？

- ・ 生データ記録オプションにてスタティック観測やRTK観測でタワーを用いる場合

GS08 plusではアンテナからのケーブルがLemoとなり、数本を繋ぐ必要があります。Lemoの場合、1本でも重量が通常のアンテナケーブルに比べ重く、数本であればより重くなります。タワーにする場合、GS15においてもアンテナ自体の重量の問題はあります。GS10ではアンテナとコントローラーをアンテナケーブルで繋ぐ仕様のみとなります。

- ・ NMEA出力が必要な場合

GS08 plusにはNMEA出力オプションの設定がありません。

- ・ 新1W(新簡易)無線の使用がGS08 plusでは使用出来ない仕様となっている

GS08 plusでRTK観測を行う場合の無線は、以下のCGR10をCS10コントローラーの上部へ装着することとなります。CGR10は新簡易無線ではなく、免許が必要とされる無線です。新1W無線よりも到達距離やデータ容量を気にすることなく、使用可能と言ったメリットがあります。GS15,GS10のいずれも新1W無線、第三級陸上特殊無線の使用が可能となっております。

VRS観測のみであれば、問題は無いのですが・・・



789 634 CGR10

要:第三級陸上特殊無線技士資格

